

# 四国における地域情報化の 現状と課題



地域情報学

Study of Regional Informate

高知大学国際・地域連携センター  
坂本 世津夫

[Sakamoto@cc.kochi-u.ac.jp](mailto:Sakamoto@cc.kochi-u.ac.jp)

平成18年6月30日(金)

# 現在の取り組み

現在は、高知大学国際・地域連携センターで生涯学習部門を担当  
公開講座の実施および、eラーニングも含めた新たな地域教育の仕組みを研究している。

## NPO支援環境の整備とNPO評価

ベンチャー支援組織（NPO）を形成しネットワークさせることで、新たなビジネスの創造・起業支援にも取り組んでいる。また、NPOファンドの運営・管理をしている（こうちNPO地域社会づくりファンド）。

## SOHO・テレワーク環境の整備

新たなワークスタイルである、SOHO・テレワークの環境整備についても取り組んでいる。

## 地域情報学

地域情報学では、情報化のあり方を「地域」という視点で捉えなおし、地域が自立する為にITを如何に活用すれば良いのかについて研究している。

地域の中で、知の伝達（コミュニケーション）や共有（コミュニティの形成）をスムーズに行い、新たな知のネットワークを形成するにはどのような基盤（前提）が必要なのか、要は、如何に地域での知的能力とコミュニケーション能力を高め自律的な地域を形成するか（地域の自立）がテーマである。

## 情報社会学



高知大学 国際・地域連携センター 生涯学習部門  
 〒780-8520 高知市朝倉本町2丁目17-47  
 tel 088-844-8555 fax 088-844-8556

[HOME](#)
[最新情報](#)
[公開講座](#)
[出張講座](#)
[講演会](#)
[担当講師](#)
[活動報告](#)
[交通アクセス](#)
[スタッフ紹介](#)

高知大学 国際・地域連携センター 生涯学習部門は、社会の学習ニーズに応えるために、大学の持つ人材、施設・設備、教育・研究の成果を広く開放し、公開講座など生涯学習を総合的に推進します。

## 高知大学ラジオ公開講座

講座名	放送日
<a href="#">朝鮮出兵と長宗我部氏</a> 講師: 津野 倫明 (人文学部)	7月10日放送
<a href="#">『真覚寺日記』の世界 - 幕末土佐の民衆像 -</a> 講師: 萩 慎一郎 (人文学部)	7月17日放送
<a href="#">自由は土佐の山間から</a> 講師: 松岡 惇一 (教育学部)	7月24日放送
<a href="#">近代土佐にきたドイツ人ナウマン - 「ドイツ年」にあたって -</a> 講師: 瀬戸 武彦 (人文学部)	7月31日放送
<a href="#">外来昆虫を考える</a> 講師: 荒川 良 (農学部)	8月7日放送

KOCHI UNIVERSITY  
 INTERNATIONAL AND  
 INTER-REGIONAL  
 ASSOCIATION  
 CENTER LIFELONG  
 LEARNING SECTION

2-17-47,  
 ASAKURAHOMMACHI,  
 KOCHI-SHI 780-8073,  
 JAPAN.  
 TEL: +81.88.844.8555  
 FAX: +81.88.844.8556

# 地域を活性させる上で

## 重要なポイント

### 1つは、「地域情報化の推進」

言い換えればICT環境の整備と利活用の促進

中でも、**教育の情報化**（教育現場でのネットワーク活用）

学校教育、社会教育（生涯学習など）

**医療の情報化** が重要

### 2つは、「生活の質に対しての意識変革（QOL）」

### 3つは、「新たなコミュニティの形成」

その前提として議論の場を形成すること（協議会やNPOなど）

**コミュニケーション力の向上**

# 「生活の質」と「地域情報化」



地域情報化を進めていく上でのキーワードは、

「クオリティ・オブ・ライフ」である。

ICTを活用して、如何に生活の質を高めていくかが、これからの課題である。

「地域情報化」と言われて10年近い歳月が経過した。この間、四国における情報インフラの整備も、まだまだ十分とはいえないにしても着実に進んできている。現在、日本は少子・高齢化や環境問題など、さまざまな要因によって社会構造や社会システムも変化し、地域コミュニティのあり方、ビジネスのあり方も大きく変わろうとしている。「情報社会」という新たな社会をむかえ、これからの地域社会を造っていくには、**地域に暮らしている人々が、自ら社会の動きに関心をもち、自ら地域を設計して、自ら新たな地域づくりをおこなうことが重要となる。**その為に、「**情報技術**」（ICT）を如何に活用していくかが今後の課題である。



# コミュニケーション力の向上

地域の活性化を進める上で一番重要なことは、地域に暮らしている人々のコミュニケーション力を如何に高めるかである。

さらには、地域内だけではなく他地域とのコミュニケーション力を高めることが重要である。

**コミュニケーション力とは**、自分の気持ちや考えを、的確な表現と分量で伝えることのできる能力。相手の意図や意識を読み解く能力である。そのような能力を育成することが、結果的に地域の活性化に繋がる。

ICTの利活用を進めるにも、まずは地域内でのコミュニケーション力を向上させることである。



地域情報学～Study of Regional Informate～ - Netscape

http://www.sriehime-u.ac.jp/

# 地域情報学

伊予銀行 寄附部門

Study of Regional Informate

地域情報学について 愛媛大学 伊予銀行

TOPPAGE 地域開放講座 月例研究会 シンポジウム 実態調査 リンク ワーキングペーパー



連続シンポジウム Part1  
地域情報化とP2P  
2003/06/11 開催



連続シンポジウム Part2  
地方都市と農村部の活性化に向けて  
伊予銀行 寄附部門・地域情報学  
2003/10/09 開催



地域創成研究センター  
設置記念講演・シンポジウム  
2004/07/03 開催

---

■ What's New

伊予銀行 寄附部門「地域情報学」は当初の予定通り2005年3月末日で活動を終了しました。

今後、**地域創成研究センター**の「地域情報学部門」として活動を継続していきます。

引き続きご支援をお願いいたします。

---

[2004/07/08]  
7/3(土)に地域創成研究センターとの共催でシンポジウムが開催されました。当日の様子は、[こちら](#)をご覧ください。

[2004/07/08]  
地域情報学の研究成果として『地域に根ざした情報化の可能性-愛媛県における実態と対話-』を出版予定です。詳細は決定次第お知らせいたします。

[2003/12/11]

### 地域開放講座

- 2002年度(入門編)
- 2003年度(応用編)

### シンポジウム

- 2004年度
  - 地域創成研究センター 設置記念講演・シンポジウム
- 2003年度
  - 開催趣旨
  - PART1の記録
  - PART2の記録

### 実態調査

- 第1回 三重県
- 第2回 沖縄県
- 第3回 北海道(札幌)
- 第4回 北海道(函館)

### 月例研究会

- 2002年度研究会
- 2003年度研究会

### ワーキングペーパー

- I+S社(システム開発)とI+C社(コールセンター)に見る沖縄における情報サービス産業の可能性(No.1)
- みあこネット:「民」による無線LANインターネット接続事業(No.2)
- Dマップ沖縄(地図データ入力)の事例にみる沖縄における情報サービス産業の可能性(No.3)
- デジタルメディアファクトリー(コンテンツ制作)の事例にみる沖縄における情報サービス産業の可能性(No.4)

### リンク

- レポート用リンク集
- 地域情報化の事例 (日経地域情報化大賞)



## 地域情報化の課題

—地域に根ざした情報化の可能性—

問い合わせ先  
晃洋書房  
615-0026  
京都市右京区西院  
北矢掛町7番地  
Tel. 075(312)0788



地域情報学の昨年度の研究成果が『地域情報化の課題—地域に根ざした情報化の可能性—』として晃洋書房より出版されました(税別 2700円)。

2002年度に開催した地域開放講座『地域情報学』入門編の各講義をもとに加筆修正を加えた内容になっているため、現在公開されている『地域情報学』入門編のビデオと共に読んでいただくと、理解がさらに深まることでしょう。

### 本書の内容

#### 第1部 地域情報化の課題と現状

- 第1章 地域情報化をめぐる課題 公文俊平
- 第2章 「e-Japan戦略」と地域情報化 湯浅良雄

#### 第2部 情報化時代の経済と経営

- 第3章 情報化時代の経済・社会  
—デファクト・スタンダード成立のメカニズムをもとに— 岡本 隆
- 第4章 ネットバブルを超えて 崔 英靖
- 第5章 地方で起業するということ 小久保徳子

#### 第3部 情報化時代の地方経済の振興

- 第6章 地域開発政策の展開と内発的發展 小淵 港
- 第7章 地域情報化の試み  
—沖縄県を事例にして— 中西泰造
- 第8章 地域情報化と魅力ある地域の形成  
—ジェイコブスの都市論と  
フロリダの創造的資本論を手がかりに— 湯浅良雄
- 補論 基本から見えてくる情報技術の可能性と限界 橘 恵昭



# 地域情報化の現状と課題



## 地域情報化の現状

- ・ 地域における情報インフラの不均衡な整備
- ・ インフラ整備が先行、ソフト面（活用面）の立ち後れ  
インフラ整備＝情報化 ではない → ICTを如何に活用するか（リテラシー）

## 地域情報化の課題

- ・ 知識の生成能力を如何に高めるか（育成・教育 育む環境）
- ・ 人にやさしい情報化の推進（使い易さ）
- ・ 地域の魅力を向上させる情報化（情報蓄積＝データベース化と情報発信）
- ・ 情報化を基盤として、自律（自立）的な経済圏を形成（電子自治体）
- ・ 外向きの情報化戦略ではなく、**地域の内部に目をむけた情報化戦略の強化**
- ・ 地域内での自発的な動きが必要  
例)
  - まちづくり
  - 産業育成 地場産業の見直しによるクラスター（新たな形態の）形成  
＝ 新たなネットワークの形成
  - 生産物の循環する仕組み（地産地消など）  
物流＝ネットワーク＝トレーサビリティなど
  - CAN＝コミュニティ・エリア・ネットワーク
  - 知的クラスターの形成 など
- ・ 柔軟な組織形成  
ネットワーク（連携）を促進させる上で情報化（ICT）は非常に有効な手段  
課題は、ネットワークを活用できる人材 & 人脈（ヒューマン・ネットワーク）  
**「人材」とは、自分の役割を認識し自ら行動できる人**

# 思考の前提

## 情報化以前に考慮すべきこと

幾ら情報通信技術（IT）が発達しても、「人＝人間」の思考能力に発展がなければ地域の活性化には進まない。「知識の生成能力」を如何に高めるか が最大の課題

見ることは、考えることである  
考えることは、構想することである（構築）  
セザンヌ

コンピュータ処理は、精神の「データ処理」（作業）であって、精神が思考している処理ではない。注意深い努力がなければ、単なるデータ処理にすぎない。機械が情報を処理しているときにやっていることと、精神が思考しているときにやっていることとのあいだには大きな違いがある。重要な事は、精神の思考である。

参考 T・ローザック『コンピュータの神話学』

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/nkaoru/Cult.html>

<http://www.hi-net.zaq.ne.jp/buakf907/bun002.htm>

# 思考の前提

「まるで、アントーニウスが今まで長々と語ってきた事柄そのものには何かの学術があるみたいだね。しかし、それは、本人も言ったように、弁論で有効なさまざまな事柄のある種の実践的規則にすぎないのだよ。それが雄弁家を創り出せるというのなら、雄弁家でない人など、どこにいるだろう。というのも、そうした実践的規則を、あるいは容易に、あるいは何らかの方法で修得できない人など一人もいないだろうからだ。しかし、思うに、そうした規則に含まれている意義とか有益性といったものはじつはこういう点にあるのではないか、つまり、われわれは 学術に導かれて何を語るべきかを発見するに至るということではなく、われわれが天性によって達成するもの、研鑽によって達成するもの、実践によって達成するものが正しいものであるとわれわれが確信したり、間違っただけであると理解したりするのは、それと比較して、判断ができる基準が何であるかをわれわれが学んだときに初めて可能となる。

キケロー著『弁論家について』岩波文庫 下巻 10ページ

「およそ語られうることは明晰に語られうる。  
そして、論じえないことについては、人は沈黙せねばならない」

ウィトゲンシュタイン著『論理哲学論考』岩波文庫 序文

四国総合通信局:地域公共ネットワークの利活用に関する調査研究会《活力あるまちづくりを目指して》 - Netscape

http://www.shikoku-bt.co.jp/chosa/tiiki-nw/index.html

総務省 四国総合通信局 Shikoku Bureau of Telecommunications

組織概要 サイト更新メール通知サービス お問い合わせ サイトマップ 検索

メニュー 報道資料 お知らせ 地域情報化施策 調査研究 統計資料 広報資料 各種申請様式 よくある質問 関係機関リンク HOME

HOME > 調査研究一覧 > 地域公共ネットワークの利活用に関する調査研究会

## 地域公共ネットワークの利活用に関する調査研究会

調査研究一覧へ戻る

### 地域公共ネットワークの利活用に関する調査研究会

《 活力あるまちづくりを目指して 》

総務省では、ICT(情報通信技術)を公的部門から推進する施策として、「e-Japan 戦略 II(ツー)」で定められた「地域公共ネットワーク(教育、行政、福祉、医療、防災等の公共施設を高速・超高速で結ぶネットワーク)の全国整備を進めています。

現在、四国4県における整備状況は、全国平均を大きく上回る状況にありますが、ネットワークの効用を生かした住民サービスの向上や地域経済の活性化に資するため、更には、昨年の大型台風襲来による大きな被害の教訓を生かした防災対策等のために、同ネットワークのより一層の利活用を検討することが求められています。

このような状況を踏まえ、四国総合通信局と愛媛大学が地域の産、学、官の協力を得て、これらの課題に対して同ネットワークで何ができるかを検討することとなりました。

また、本研究会は、広域的(県のスーパーハイウェイ等)なネットワークのシステム、遠隔医療システム、eラーニング、地上デジタルテレビの普及に向けた活用方策、コンテンツ流通等具体的なアプリケーションのテーマについても検討を行うこととしています。

【活動期間:平成17年2月~平成18年3月】

[研究テーマ](#)  
[研究会メンバー](#)  
[活動状況](#)  
[お問い合わせ先](#)

# 地域情報化の目標・目的



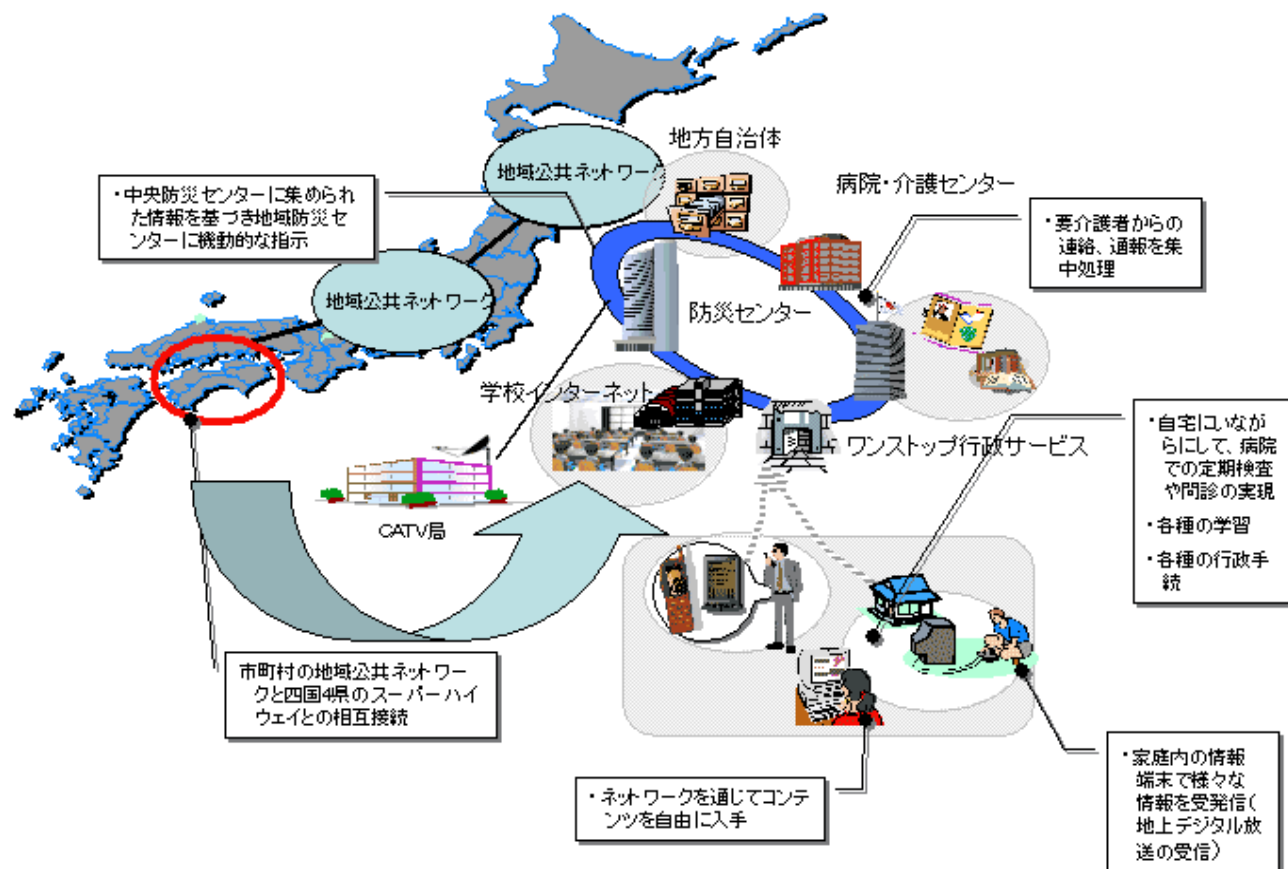
「地域情報化」は、情報通信インフラが整備されることや、インターネットやパソコンの普及ではない。

「地域情報化」は、ICTという手段を活用することで、対象となる地域において

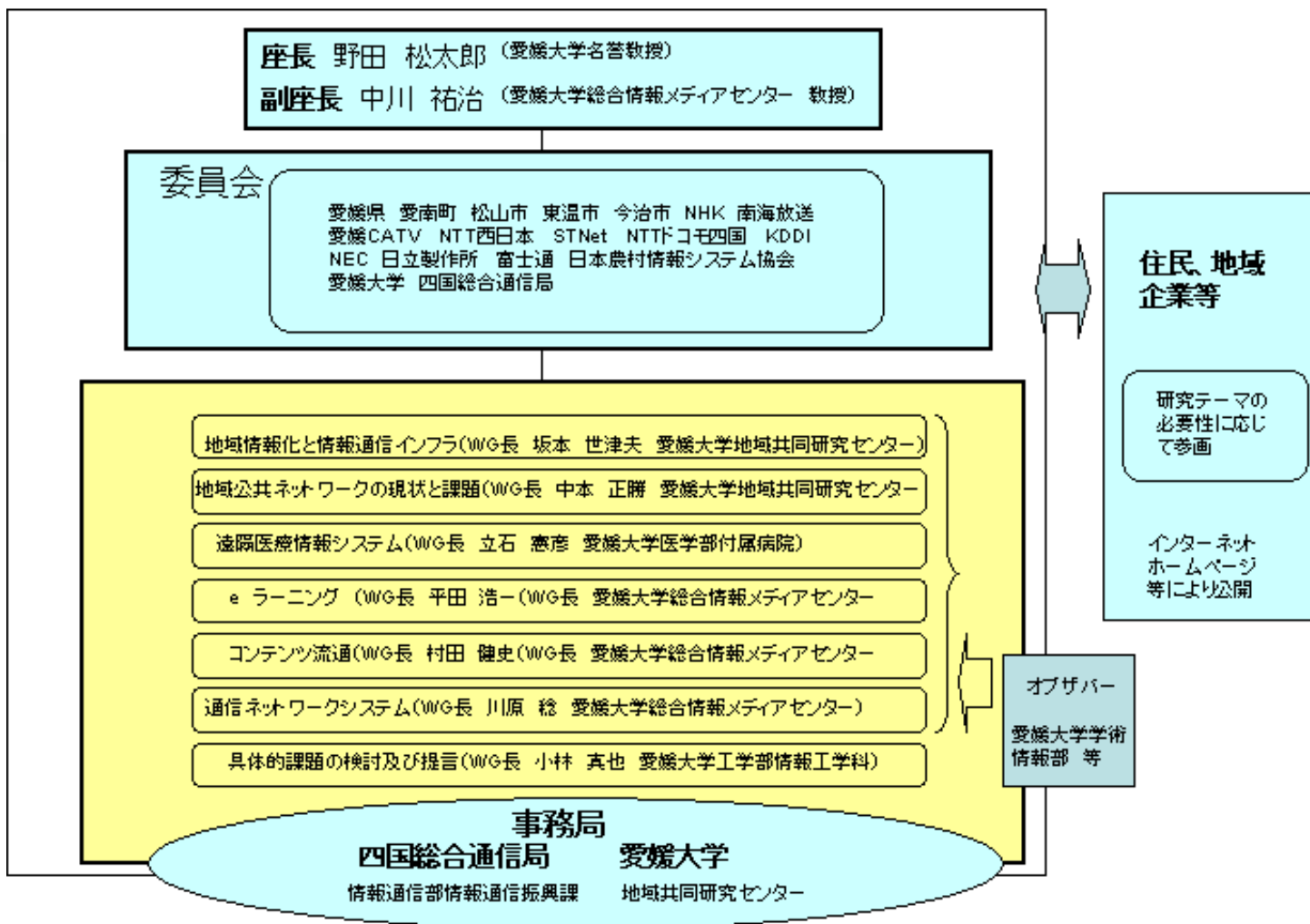
1. 豊かさの基本にある「生活の質」（クオリティー・オブ・ライフ、QoL）が、さらに高まっていくこと（QoLの向上）
2. その地域に既存の産業や（公的な）事業が効率化、あるいはまた、高度化されること（産業・事業の効率化・高度化）
3. これまで存在しなかった新たな産業の創出やサービスの提供が可能となること（新産業・サービスの創出）

以上の3つがその目標であり目的である。

研究テーマ(イメージ)



# 地域公共ネットワークの利活用に関する調査研究会



# 愛媛ZIT



平成16年9月、ネットワーク上で議論する場（プラットフォーム）として「愛媛ZIT」というメーリングリストを立ち上げた。「愛媛ZIT」のZIT（ジット）とは、「ジゲおこしインターネット協議会」の略称である。ZITの本家本元である鳥取県では、「ジゲ」は「地域」を意味している。鳥取県のZITは、インターネットの持つ無限の可能性を信じ、これを鳥取県への観光客誘致・催事の告知をはじめ、「ジゲ(地域)おこし」の広報・コミュニケーションに活用できないかを摸索することを主な目的とした活動である。



地域情報学月例研究会



# 四国の中山間が元気に

情報化によって生活の質を向上させるためには、情報化で具体的に何が出来るかを考えていくことが非常に重要である。従来の地域情報化は、情報通信環境を整備すること自体にその目的があったように感じるが、これからは地域情報化の本当の目的を見つけだして、有効なものから一つ一つ実現していくことが地域の活性化に繋がると考えている。

最近、四国の中山間が非常に元気になってきている。**葉っぱビジネス**で有名な徳島県上勝町は、平成18年3月に、FTTHを実現している。また、愛媛県と県境を接する高知県仁淀川町でも、ADSLが使えるようになっている。仁淀川町の「しもの郷」（廃校を活用した宿泊施設）では、無線LANのフリースポットもある。

今後、中山間（田舎）においてテレワークを推進することは、地域の活性化にも大きなメリットとなる。上勝町では、単に廃校の活用だけでなく、一歩進んで**新たな住環境の整備（住宅整備）**もおこなっているが、**ブロードバンドと新しい住宅は、テレワークにとって大きな要素であるとともに、I J U（移住）ターンを促進させ地域を活性化させる為にも大きな要素になると考えている。**

# クオリティ・オブ・ライフの実現



四国は自然が豊で、気候風土も素晴らし地域である。山海の幸も豊富で、連なる山々の緑や、青い海を眺めながら暮らしていると、何ともいえない幸福感を感じる。週末には、瀬戸内海に浮かぶ「しまなみ」の島々に出かけて温泉に入りながら瀬戸内海に沈む夕日を眺める。そして、夜は島の人々と一緒に瀬戸内の幸を楽しみながら島の歴史や文化について語り合う。

また、ときには四国の山中に入って、自然の中にある食材で天麩羅をつくり、満天の星を眺めながら山の人々と一緒に田舎の良さを語り合う。そこには、何とも言えない時間の流れと幸福感がある。気がつけば、暮らしの中には素晴らしい資源がたくさんある。豊かな自然の中で仕事をし、そして人生をおくるには、四国は本当に素晴らしい地域であると感じる。最近ではブロードバンド環境も整備され、山間部においても高速なネットワークが使えるようになってきたところもある。まさに、何処にいても仕事ができる時代、**テレワーク・テレライフの時代**である。



高知県仁淀川町（旧吾川村）

平成18年6月30日

JGN II ワークショップ

